

2015年12月号

12月15日(火)発行

釧路湿原国立公園

温根内ビジターセンター

月刊 温根内通信 No. 231



釧路湿原らしい冬…

11月中旬にまとまった雪が降りましたが、その後は晴れる日が多く、せっかくの雪化粧も、荒涼とした茶色い風景に戻ってしまいました。12月に入ると最低気温がマイナス10度近い日もあり、今年も長く厳しい冬が始まったのを肌で感じます。

昨冬は暖冬で、毎週のように暴風雪がやってくる大荒れの冬でした。さて、今冬は釧路湿原らしい少雪で厳寒の冬になるのでしょうか？

☆☆☆温根内ビジターセンター 探勝木道周辺の自然情報☆☆☆



～温根内探勝木道周辺の自然～



【ドクゼリ(根茎)】
 セリ科 毒芹
 小さなたけのこのような姿で水に浮いています。このまま越冬し、来年8月には白く小さな花をたくさん咲かせます。猛毒注意



【タヌキモ(越冬芽)】
 タヌキモ科 狸藻
 丸い玉のような越冬芽が水中で越冬し、来春にはほぐれて生長し、だんだんタヌキの尻尾のようなふさふさの葉になります。食虫植物



【オオバタネツケバナ(葉)】
 アブラナ科 大葉種漬花
 鶴居軌道跡の凍らない湧水の中で青々とした葉の状態です。冬を乗り越えます。来年5月には白く小さな花を咲かせ、見事な群落を作ります。



【エゾリス】
 リス科 蝦夷栗鼠
 今年はドングリが不作だったので、あちこち探し回っているのか、温根内では滅多に見られないエゾリスが姿を現しました。



【ヒメネズミ】
 ネズミ科 姫鼠
 事務室の机の上で痕跡を見かけるのでトラップを設置すると、ヒメネズミがかりました。冬に向け、センター内で餌を探しているようです。



【アメリカミンク】
 イタチ科 特定外来生物
 冬の間は凍らない湧水の周辺で餌を探します。鶴居軌道跡の遊歩道の縁にはミンクの出入りする穴があちこちにあり、頻りに姿を見かけます。

○表紙の写真 上：ミズゴケ湿原のエゾシカ 中右：霜が降りたオオバタネツケバナ 中左：ハンゴンソウ 下：エゾリス

～温根内探勝木道周辺の野鳥～

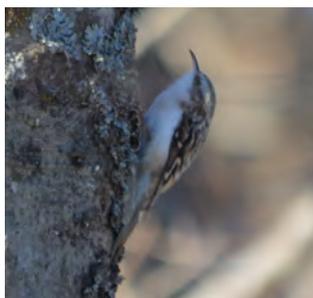
釧路湿原にも冬の使者オオワシがやってきました。空を見上げると悠々と飛び姿が見られるかもしれません。鶴居軌道跡の湧水周辺ではタンチョウがたびたび餌を探しに訪れるようになり、冬らしくなってきました。ビジターセンターでは無料で双眼鏡を貸し出ししています。暖かい格好で冬の野鳥観察をお楽しみください。



【ハシブトガラ】 留鳥
シジュウカラ科 嘴太雀
冬の間はシジュウカラやゴジュウカラなどのカラ類と混群を作ります。温根内では一番おなじみの野鳥で、じっくりと観察できます。



【アカゲラ】 留鳥
キツツキ科 赤啄木鳥
「キョッキョッ」という声を出し、木を突き、中の虫を捕まえて食べています。鶴居軌道跡やハンノキ林、センター周辺で見られます。



【キバシリ】 留鳥
キバシリ科 木走
背面が木の幹の色と似ていてとても見つけにくいですが、「シリリ…」という特徴的なやさしい声を頼りに姿を探すと見つかります。



【オジロワシ】 冬鳥・留鳥
タカ科 尾白鷲
釧路湿原では少数が繁殖していますが、多くは冬に大陸から渡ってきます。尾が白いのが特徴で、翼を広げると2m以上あります。

○温根内探勝木道周辺で観察された鳥（11月15日～12月14日）※和名は日本鳥類目録第7版の順

■オオハクチョウ■マガモ■アオサギ■タンチョウ■トビ■オジロワシ■オオワシ■ハイタカ■ノスリ■ケアシノスリ■コゲラ■アカゲラ■カケス■ハシボソガラス■ハシブトガラス■ハシブトガラ■シジュウカラ■ヒヨドリ■エナガ■ゴジュウカラ■キバシリ■ツグミ■セグロセキレイ■カワラヒワ■マヒワ■シメ

☆☆☆コラム 「温根内周辺の外来種 ②」 ☆☆☆

温根内ビジターセンター 指導員 本藤泰朗

温根内周辺の外来種を調べてみると、植物ではセイヨウタンポポ、ヒメジョオン、オオアワガエリやカモガヤなどのイネ科の牧草類、その他数多くの外来種が目につきますが、これらはすべてビジターセンター敷地内と鶴居軌道跡（湿原内ではなくその周り）で見られ、湿原内までは入ってきていません。しかし4年ほど前からはアメリカセンダングサが湿原内で見られるようになり、今



アメリカセンダングサ
(湿原内)

夏はオオアワダチソウの群落が湿原ぎりぎりのところまで入ってきているのを確認しました。この2種は発見次第引き抜いていますが、ここで挙げた種は今年作成された「生態系被害防止外来種リスト」（環境省・農水省）にも載っている侵略性の高い外来種で、在来種を駆逐してしまう可能性が高いため、これ以上広がらないよう対策が必要です。

ほ乳類はというと、特定外来生物にも指定されているアメリカミンク（食肉目イタチ科：北米原産）が目につきます。毛皮を得るために養殖された個



アメリカミンク
(湿原内、特定外来生物)

体が逃げ出して定着しているのですが、足には水かきがあり、泳ぎが巧みなことから湿原は棲み家としてうってつけの環境で、真冬でも湧水ややちまなこは凍らないので、餌が採れます。好奇心が旺盛で、人間が近づいても逃げない



アメリカミンクの巣穴の入り口
(クイナの羽毛が散乱している)

場合も多く、木道上で寝そべり、すぐ脇を人が通っても平気な個体がいるなど、人慣れや観光客のエサやり問題も懸念されています。

アメリカミンクの食

性は幅広く、木道を歩いていると、様々な食痕を目にします。湿原周辺の湧水地に棲むニホンザリガニ（絶滅危惧Ⅱ類）やエゾアカガエル、水生昆虫などの水中で暮らす生物だけでなく、湿原内や周辺に営巣する鳥類（クイナ、オオジュリン、アオジ）、シマヘビなどの食痕も確認しています。このほかにもネズミ類や魚類、植物の実など、様々な生物を食べていると思われます。アメリカミンクの定着は釧路湿

原の貴重な生態系に悪い影響を及ぼして、長い目で見ると姿を消してしまう生物もいるでしょう。早急に駆除を行い、慎重に管理しなければならない存在です。

その他のほ乳類ではアライグマ（特定外来生物）、ニホンイタチ（国内外来種）が湿原周辺で生息している可能性があります。今のところ釧路湿原では目立った農業被害や目撃情報は得られていない状況です。〔来月号へつづく〕

☆☆☆☆自然ふれあい行事が開催されました☆☆☆☆



○「リースを作ろう」11月29日（日）参加者17名

鶴居村のリース創作研究科、甲斐美弥子氏を講師に、クリスマスに向けて、リースを作るイベントを開催しました。甲斐氏からは飾り付けのコツや色使いの基本などを教えていただき、それを元に指導員手作りの土台に、様々な木の実やリボン・オーナメントなどで飾り付けて、思い思いにクリスマスを演出するオリジナルリースを制作しました。



○「初冬の湿原ハイク」12月6日（日）参加者11名

釧路市立博物館の学芸員、加藤ゆき恵氏を講師に、湿原やその周辺の植物はどのようにして長く厳しい冬を越えるのかをテーマに観察会を行いました。樹木の冬芽の形や種による違い、水中で越冬するドクゼリやオオバタネツケバナ、タヌキモなどの個性的な姿を観察し、それぞれが様々な「作戦」を使って厳しい冬に備え、春を待っているのかを観察しました。

☆☆☆☆イベントのご案内（1月）事前の申し込みが必要です☆☆☆☆

○温根内ビジターセンター ⇒お申し込み☎0154-65-2323

♪厳冬の湿原ハイク

〔日時〕1月17日（日）10:00～12:00〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料

〔場所〕温根内ビジターセンター

雪の上の足跡などを観察し、冬の湿原にはどのような生き物がいるのかを探ります。

○塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）⇒お申し込み☎015-487-3003

♪連凧を作って揚げよう

〔日時〕1月9日（土）10:00～12:00〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕100円（材料費）

〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター

～年末年始休館日のお知らせ～



本年は大変お世話になりました。
来年もよろしくお願いたします。

年末年始休館日

12月29日（火）～1月3日（日）

.....月刊 温根内通信 No.231

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-0036 北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel: 0154-65-2323 Fax: 0154-65-2185

E-mail: ovc@hokkai.or.jp

ホームページ: <http://city.hokkai.or.jp/~kkr946/>

Facebook: <https://www.facebook.com/Onnenai.VC>

開館時間: 10:00～16:00(4月～10月は17:00まで)

休館日: 毎週火曜日(12/29～1/3は休館) 入館無料

.....